
RESTART

たま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

RESET

【Nコード】

N2693U

【作者名】

たま

【あらすじ】

一瞬で夢は覚めちゃうから
執拗なくらいの虚無感に襲われて
誰かへか分からない罪悪感
私を誰か愛してくれますか？

人生の再スタートを、、、

(前書き)

ほんの少しかする程度ですが性的な表現があります
しかし、本当にかする程度です

この作品のテーマは優しさや愛情です

その辺を頭に入れてからお進みくださいませ、、

では前置きはこの辺にして
どうぞ

今日は適当な誰でもいい、ただ甘えたいの
目の前に現れたのは長身でスタイル的には好みの社会人、顔もな
かなかで悪くはない

” 今晚はこの人と共に過ごすとしよう ”

最近は何らない男の家に転がり込んで夜を共にし、生活の援助
をしてもらっている。簡単にいえば援助交際ということ、言葉
にしてみるとあっさりとしたものだが実際はあまりいいものではな
い。

寂しさの紛らわせ方をよく知らないから、こうするしかないのよ
でもね？ 1人になると不安なの

どうしようもなく誰かに甘えたいくなる

だって身体さえ売れば抱きしめてくれるんだもの

一瞬でも愛を与えてくれるの

それでも、だめ。

一瞬で夢は覚めちゃうから

執拗なくらいの虚無感に襲われて

誰かへか分からない罪悪感

私を誰か愛してくれますか？

「あのー、私が探してる方ですか？ えっと、違ったらすみません、
、、」

いつものセリフ

「君が探してるのはきつと俺だね」

笑いながら どこに行こうか？ と聞いてくる

いつもならそのまま家かホテルへと連れて行かれるのにこの男は

そんな様子を見せない、私はそんなに魅力がないだろうか、、急に自分への自信がなくなってくる

「すみません、想像と違いましたか？」

返答とは程遠い私からの質問、何のこと？とでも言いたそうな目の前の男

「だから、私って不細工ですか？胸ないですか？スタイル悪いですか？抱きたいと思えないですか？」

いつもは荒げない声を人通りの多い場所で荒げた、一気にまくし立てたと同時に周囲の視線も一気に突き刺さる、もう泣きたくてたまらない、何が何だか分からない、自分が何に対して怒っているかも、ましてや今日初めて会った男に対するこの感情も、、全部、全部、分からない。

「場所変えよう？」

男が優しく私の手を引き人通りのない道に出てくれた

「君は充分魅力的だ、でもまだ未成年だろ？」

そんなのどうでもいいのに、、だって現に貴方とは出会い系サイトで出会ったのよ？沢山言葉が頭に浮かんだが泣くのを我慢していたせいで声が上手く出せない

「俺にどうしてほしいの？」

涙が一つ。二つ。三つ。

初めて自分の意思を尋ねてくれた、叶えようとしてくれている、

「抱きしめてほしい、、抱くんじゃなくてギュッてしてほしい、それで頭をなでてほしい、優しくキスしてほしい、私を求めてほしい、それでね、、ごめん、なんでもない欲張りなのわたし。」

ふわりと人の体温が自分を覆うのが感じて目を開けてみると男が抱きしめてくれていた頭をなでてくれている、自分が欲しかったものはなんて簡単なものなのだろう、こんなに簡単にして貰えることを私はなぜ今までこんなにも欲していたのだろう、、それでも優

しくて温かい。

「欲張りでもいいと思うよ、君は寂しかったんだろ？」
自分の中で防護線を張っていたが切れてしまったようだ
そうか、独りだと埋めきれないものなのか

2人だから触れ合えるし、確かめられる

なんでこんなに簡単なのにこんなに難しいんだろう

ありがとう、ありがとう

「本当はね、私1番欲しいものがあるの、、愛情。」

泣きながら一生懸命に伝えた、たとえ相手が出会い系サイトで出会った相手であっても自分を知ってもらいたかった、もしかしたら自分の存在を証明してもらいたかったのかもしれない

「愛情か、俺が君にプレゼントをしてあげよう。」

[illegible]

もらったモノは貴方の人生

たまにしか会えないけれど、何かが埋まった気がした

不安がないとは言えないけれど

とても温かいプレゼントをもらった

初めてのプレゼント

人の温かさが心に染みだ

ありがとう、

16歳の夏、私は初めて家族ができました
1からのスタート

貴方と歩み出すこの一歩が明日へと続きますように

1人でも欠けたら意味がない

1人は怖くないよ、でも独りはとても寂しいの

私の人生に貴方の人生が加わった

1人じゃできないことも2人だとできるの

1+1=2

2人で歩くこの一歩目は、、

RESTART',',

[RESTART/end]

(後書き)

人生の再スタート、、

” 1 + 1 = 2 ”

2人で歩む先が幸せでありますように

何が言いたいかと言うと、

手と手を繋げば1つになるということです

2人でひとつの存在

これが愛情だと私は思います

1人と1人では2人となって

その2人が手を取り歩めば

その先は1となるということです

中学の頃友人が寂しき紛れになるものを探していたのを思い出して小説にしてみました、その友人は結局は援助交際には行きませんでした。が人とはやっぱり誰もが寂しいものなんだと思います

ふとしたときに思っていたただければ幸いです

b y t a m a

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2693u/>

RESTART

2011年10月6日08時12分発行